① へんてこなかたち
風変わりなからだ

虫は、地球上の生物の約８割を
しめているといわれています。
しかも、とにかく種類が多い。
種類が多いということは、かたち、
色、生態も変化に富んでいるということです。

アシナガオサゾウムシ（マレーシア）

クイズ

これは、世界一、前あしが長いオサゾウムシ。この長い前あしを何のためにつかうのでしょう？

ア 木にとまるため
イ メスをつかまえるため
ウ わからない

ようろうばなし
虫は種類が多い

虫にはたくさん種類があります。日本のクワガタだけでもオオクワ、コクワ、ヒラタ、アカアシ、チビ、マメ、ルリなど、カミキリムシなら日本で700種類、ゾウムシのなかまは1600種類、チョウなら200数十種、世界では、虫はあわせて何種類くらいでしょうか。多くかぞえる人は3000万種類といいますが、これは多すぎるかんじなので、常識としては500万種類をこえるぐらいとされています*。

こたえ ウ
写真のオサゾウムシは、体長4cmくらい。前あしの長さは、体長の2倍以上もある。しかし、こんなに長いあしを何のために つかうのかは、よくわかっていない。

＊ 現在わかっている生きものの種類の半分以上を虫がしめているといわれている。しかも毎年新種の虫がたくさん発見されていて、じっさいにどのくらいの種類が地球上にいるのかはわかっていない。

へんてこなかたちの虫いろいろ

マレーテナガコガネ（マレーシア）

テナガカミキリ（ペルー）

キリンクビナガオトシブミ（マダガスカル）

ロクロクビデオキノコ（ボルネオ）

バイオリンムシ（マレーシア）

サンヨウベニボタル（マレーシア）

コケムシゾウムシ（マダガスカル）

シュモクバエ（カメルーン）

ウシロムキアルキ（タイ）

ヨツコブツノゼミ（ブラジル）

アカバナテングビワハゴロモ（マレーシア）

ユカタンビワハゴロモ（ベルー）

手あしが長い！
首が長い！

手あしや首が、とんでもなく長い虫たちがいます。どんなふうに役立つのでしょう。

アシナガオサゾウムシ（マレーシア）

長くてかたい口は、産卵のために木の幹や果実にあなをあけるのに用いられることが多い。

マレーシアの大型オサゾウムシ。おそらくこの長いあしはメスを守って、ほかのオスにとられないようにするためのものだと思うけれど、とてもめずらしい種類で、２匹をいっしょに見たことがないので、たしかなことはいえないんだ。

前あしが異様に長い！

わたしの好きな虫はゾウムシです。ゾウムシは鼻が長いからゾウムシという名ですが、長いのはじつは鼻ではありません。口です。長くなったこういう口を口吻といいます。ゾウの鼻は口吻ではありません。ゾウの口の部分はのびていないからです。ゾウムシは虫のなかでも種類がとくに多いのです。ところで、虫に鼻という感覚器はありません。触角や口のあたりに生えている毛が鼻の代わりに、においを感じています。

マレーテナガコガネ（マレーシア）

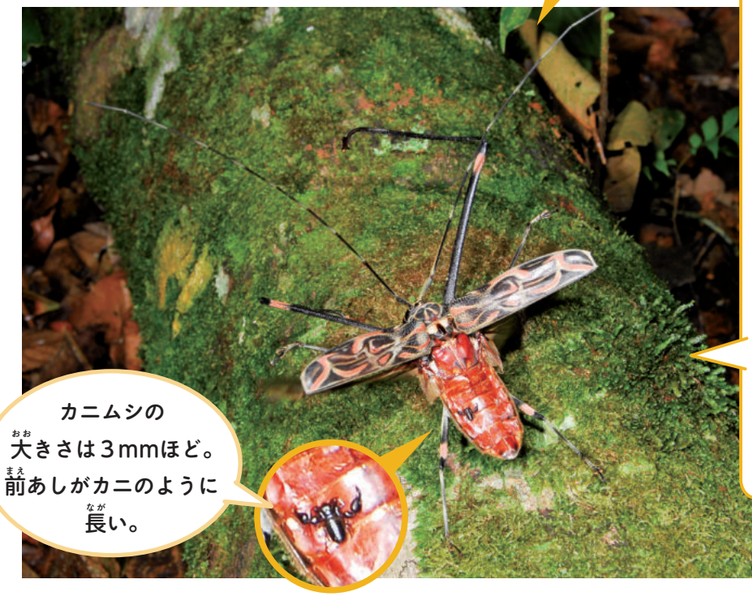
とくにオスの前あしが長く、前あしをつかってオスどうしがたたかったり、メスをおさえつけるのにつかったりするよ。

触角がかわいい！

体長65mmほど。標高の高い地域にすんでいて、あかりにとんでくることがある。

テナガカミキリ（ペルー）

体長は６cmほどなのに、前あしの長さは10cmをこえている。オスの前あしが、とても長い。本当かどうかはわからないけど、飛行機のモデルになったともいわれるカミキリムシだよ。



カニムシの大きさは３mmほど。前あしがカニのように長い。

テナガカミキリのせなかには、カニムシという、小さなサソリのような生きものがのっている（円内）。カニムシはテナガカミキリのせなかのダニなどを食べてそうじをし、そのかわりにテナガカミキリを飛行機のようにつかう。テナガカミキリがたまごを産む場所はイチジク科の倒木などと決まっていて、カニムシもその木にすんでいる。産卵場所をもとめ、異性をもとめて、倒木から倒木へ移動するテナガカミキリにのることで、長距離の移動が可能になるのだ。テナガカミキリにとってはそうじやさんのカニムシがいても、とくにじゃまにはならないだろうし、カニムシにしてみれば、テナガカミキリのせなかにのっていけば、かならずなかまに出会えるから大だすかり。

英語では「ハーレクインビートル（道化師のカミキリムシ）」とよばれる。はねのもようからつけられたといわれる。

キリンクビナガオトシブミ（マダガスカル）

メスの首は短いが、オスの首は胴の長さよりも長い。キリンのように首が長いのは、オス同士がメスをとりあい、首をぶつけあってたたかうためだ。

赤い前ばねがよく目立つ。

葉をつつ状にまいて、そのなかにたまごを産みつける。

ロクロクビデオキノコ（ボルネオ）

首の長い甲虫といえばオトシブミが有名だけど、これはデオキノコのなかま。「ろくろ首」というのは、首がのびたりちぢんだりする日本の妖怪のことをいうよ。うごきがとてもすばやいよ。

妖怪のろくろ首は、のびちぢみするけど、ロクロクビデオキノコの首は長いまま。

やけに奇妙なからだ

どうして、このようなからだになったのでしょう。そのふしぎなすがたかたちに、おどろくばかり。

バイオリンムシ（マレーシア）

楽器のバイオリンによくにたすがたをしている、オサムシのなかま。体長が10cmほどもあるのに、からだの厚さは5mmもない。

小さなサルノコシカケにはりついているバイオリンムシ。英語で「ギタービートル」とよばれる。日本では、「ウチワムシ」などとよばれることもある。

サンヨウベニボタル（ボルネオ）

大むかし、海中にいた古代生物の三葉虫とすがたがにているため、この名がついた。きみょうなかたちをしているのは、すべてメス。

ベニボタルのなかまのオス。

おしりに吸盤があり、そこでからだをささえながら前に進む。シャクトリムシのような歩き方だ。

コケムシゾウムシ（マダガスカル）

からだにコケのような長い毛が生えている。とぶことはなく、うごきもゆっくりなゾウムシだ。熱帯雨林には、ほんもののコケが生えているものもいる。

コケが生えるまでじっとしている。コケが生えるのは相当な時間がかかったのではないだろうか。

シュモクバエ（カメルーン）

シュモクバエとは別のなかまで、目玉がとびだしたハエ。（パプアニューギニア）

頭から出ている枝状の長い角のような突起の先端に目がついているよ。まるで潜望鏡のようなかたちだから、四方八方さぞかしよく見えるだろうね。体長5～8mmと、とても小さい。オス同士が出会うと、頭でおしあってケンカをすることもある。より長い突起をもっていればいるほど、強いことになる。おたがいに顔をよせあい、目と目の幅が広いほうが勝つ！

左がメス、右がオス。オスはとくに突起が長い。このとびだした突起がカネをうつT字型の仏具の「鐘木」のようなかたちをしているので、この名がついた。

ウシロムキアルキ（タイ）

写真の向って左が頭のように見えるけれど、こっちがおしり。

おしりに触覚のようなひげがあり、目玉みたいなもようがある。このために、おしりが頭に見える。歩くときも後ろ向きに歩く。枝の先までいってしまったりすると、こんどはそのままの姿勢で前向きに歩きだす。前にも後ろにも自由自在に歩くのだ。

世にも奇っ怪なかたち

「奇っ怪」とは、ふつうではない、きみょうであやしい、常識からはずれている、というような意味です。おもわず「ありえない！」といってしまいそう。

セミのように植物から汁を吸う。ツノゼミのいる植物にはアリがいることが多い。アブラムシと同じように、アリに排泄物（甘露）をあたえ、身をまもってもらう。

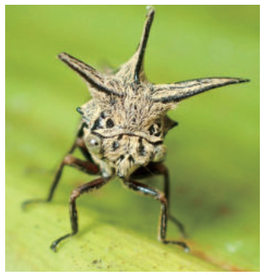
ヨツコブツノゼミ（ブラジル）

多くは５mmから１cm。セミに近いなかまで、せなかに信じられないような角（突起）をもっているものが多い。虫のかたちは、生活するのに都合のよいように進化してきたものが多いけれど、ツノゼミの角がどんな役目をするのか、よくわかっていないんだ。

●ふしぎなすがたのツノゼミたち

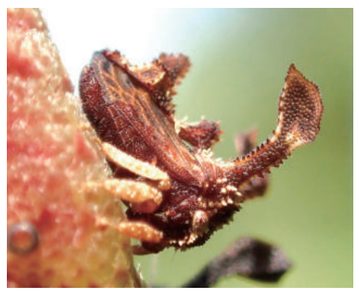
カネジャクツノゼミ（タイ）。せなかの角のかたちが、大工さんがつかう曲尺ににている。

カネジャクツノゼミのなかま（カメルーン）。



チョウツノゼミ（タイ）。中国語で「周氏角蝉」。その周氏のラテン語表記（chou）から名づけられた。

ツノゼミたちは世界中の熱帯から温帯にすんでいて、熱帯地方にはとくに多いよ。



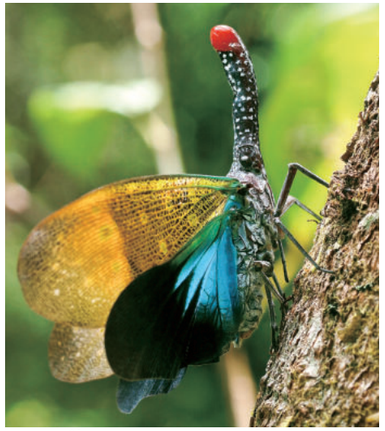
トゲウサギツノゼミ（マレーシア）。ウサギの耳のような角（トゲつき）がついている。

ミカヅキツノゼミ（コスタリカ）。角とからだが一体となり、かれた植物ににせている。

アリカツギツノゼミ（ペルー）。せなかにアリをせおっているように見える。

アカバナテングビワハゴロモ（マレーシア）

頭部に天狗の鼻のような長い突起があるのがとくちょう。めったにはねを開かないけれど、つかむとはねを開くことがある。でも、つかむ前にジャンプして、はねを開いてにげられてしまうことが多いんだ。

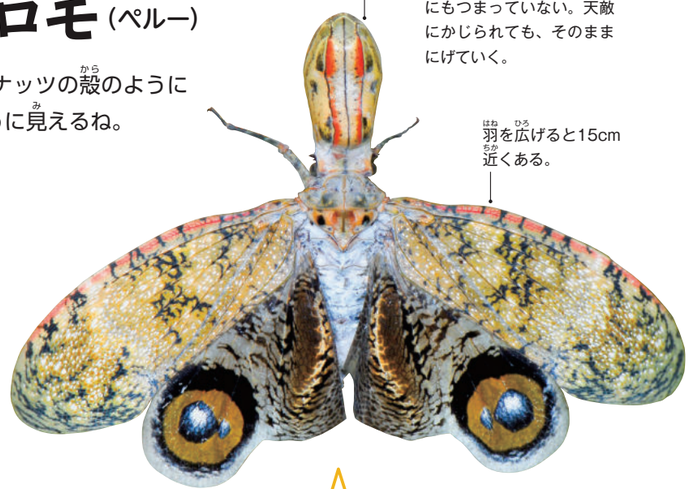


ふだんは前ばねにかくれて見えない後ろばねのはでさも見のがせない。

おどろくとはねを広げて、後ろばねの、はでなもようを見せる。

ユカタンビワハゴロモ（ペルー）

とびきりかわったかたちの虫。頭がピーナッツの殻のように大きくふくらんでいて、まるでワニの顔のように見えるね。



後ろばねに大きな目玉もようがある。さわるとはねを開き、二つの目玉を見せる。まるでこちらをにらんでいるよう。小鳥がこの目玉もようにおどろくから、小鳥を寄せつけないためには目玉を見せつづけたほうがよいというわけで、はねを開きつづけるんだ。13と15ページでも目玉もようの虫たちを紹介するよ。